



授業 詩と写真(3年生/撮影)

詩を通して感性を豊かにする目的があるようだ。自分で詩を選んだり創作して、それに合った写真を撮影する。詩は中国語で書かないといけないので難しいが、詩を学ぶことによって中国語の響き、読み方など学べたのでよかった。ドキュメンタリー写真と同じベテラン先生で、先生でありながら芸術家としての仕事が忙しく、授業の半分以上がキャンセルだった。



授業 広告撮影・映像創作実験研究(実践課題)

大学2年生から大学院生の合同授業である。3~6人のグループに分かれて、広告写真と1分間の映像を作成する。テーマは食品・プロダクト・ファッションから選ぶ。私は日本語が話せる学生がいるグループに加わり、どら焼きの写真撮影をした。院生の撮影・編集スキルが高く、見て学ぶことができた。そして、日本の広告が中国で人気らしく、参考になっている中国人学生が多かった。そこに独自のアイデアが加わっていたので、日本人の私も様々なアイデアを吸収することができた。



食べ物 自炊編

留学生寮には電子レンジとIHがある。食器や調理器具は格安なので、買い揃えて自炊することも可能。日系スーパーがあるので調味料や食材を手に入れやすいし、日本より少し高い程度でとても高いわけではない。自炊の方が外で食べるより安いことは確かだが、食堂がとても安いので、手間暇考えたら自炊はお金・時間の節約になっていないと思う。ただ、食堂にはフルーツや生野菜がないので、サラダをよく作っている。マンゴーやスイカなどの大好きな果物が安いので嬉しい。



奇怪な食べ物 虫

串屋台で見つけた虫料理。手前から蚕、セミ、バッタ、芋虫、サソリである...どれも見た目が苦手だ...なんの昆虫か画像検索した時にもっと奇怪な昆虫食がたくさんでてきた...蚕だけは食べたことがあるが、意外にも食べれる味である。しかし脳裏に浮かぶ昆虫の姿。中国語サイト"百度"でさえ「あなたは食べる勇気がありますか?」と書いてあったので、ポピュラーな食べ物ではないのかもしれない。気になる方は画像を拡大してよく見てほしい。



アートの街

上海には芸術区がいくつもあり、無料の展示会が毎日開催されている。M50はたくさんのアトリエ兼ギャラリーが集まった場所で、ここに行けば絵画、写真、彫刻、オブジェ、ウォールアートなどさまざまな芸術を見ることが出来る。そして、K11は華東師範大学の卒業展示やファッションショーを行う場所でもあり、街の中心で展示会をできるのは都会大学の良いところだ。他にも浦東美術館、外灘美術館、上海図書館などで大型展示会が開かれている。

第一个吃螃蟹的人

華東師範大学 6月報告書 デザイン4年 杉山歩乃佳



梅雨だ...上海の梅雨は体感したことないくらい蒸し暑い...連日三十五度越えて、夜も二十七度ある。毎日ジメジメしていて早く梅雨明けしてほしい...
今月は寮生活での不満から聞いてほしい。寮には共同の冷蔵庫があるが、誰かが食べ物を盗み続けている。食材を盗まれたことはないが、アイスやフルーツ、ケーキなどすぐ食べられるものが盗まれて続けている。食べ物に名前を書いても意味なし。アメリカでもハウスメイトが勝手に食べたことはあったが、聞けば正直に白状した。だが、ここでは誰も名乗らないし、先生やスタッフが一緒に住んでいるのに誰もこの盗難問題を解決しようとしていない。私は高いものを盗まれたわけではないが、誕生日ケーキを盗まれた子はかわいそうだ...盗まれ続けすぎてムカついたので監視カメラを見に行ったが、キッチンにはカメラがなかった。あと、チエックするのがとても面倒だった。先生は「盗難はどこ国でもある。他国の寮でもよく起こったから諦めなさい。」の一言で終わった。市内でスリとかの心配はないが、寮での窃盗は諦められないようだ。寮にはグループチャットがあり、窃盗や騒音などの報告をすることができる。この

報告が嫌味つたらしい(笑)。「盗むな」「夜は静かにして」だけいいのに、「あなたの国では窃盗が普通なんだね。」「どうしてそんなにうるさいの?」一言余計だ。
次に留学生だけのイベントとして運動会とドラゴンボード大会があった。イベントが少ない大学での貴重な友達づくりの場だ。ワクワクしていたが、思っていたのと違った。運動会では仲間グループを作り登録をする。そのため国籍がかたまっていたり、クラスメイトで構成されていたりしていた。いつものメンバーで固まっているところに突然話しかけるのは勇気がいる。話しかけてはみたく、解散後の夕飯になると同じ国籍の人たちでごはんに行ったり、孤食する人が多かった。そして、運動会では競争心が強い人たちが閉会後も言い争っていた。国の価値観、人種、宗教観など競技以外のことも重なりグループチャットが荒れ、微妙な終わり方だった。嫌味つたらしく言いすぎたようで、ジョークを言う時は文化の違いを絡めると揉め事につながると思うんだ。
ドラゴンボードでは20人しか参加できず、最初の三回の練習会に参加しないと選手に選ばれない。語学学生は午後授業がないの

で練習会に参加できたが、学部生の私は授業があり、練習会に行けなかった。そのため大会に参加できなかった。選手に選ばれたら一ヶ月半、週三で練習がある。部活みたいで楽しそう。履修授業が少なければ学部生も可能かもしれない。
そういえば四月に留学生対象のミニ旅行があったが、これも人数制限がある。オンライン先着順で競争率が激しくチケットは入手困難で、争奪戦に敗れた。華東師範大学では留学生のみのイベントはあるが、全員が参加できるわけではない。また、華東師範大学全体でのイベントはなかった。学生人数が多すぎて無理なのだろう。中国の教育自体、イベント少なめ、勉強中心である。なのでクラスメイトたちは日本の学校生活、「青春」に憧れているらしい。
最後に授業についてだが、学期が終わりに感じたことは、文芸大よりはるかに負担が少ない。一週間に最大三科目、課題を同時進行しなくていいのでストレスが少ない。そして、先生が授業をしない。これは勉強嫌いではない学生ならマイナスポイントかもしれないが、私にとってはプラスだった。アメリカでは先生が授業をしなかった時、抗議するほど英語を



学びたいと思っていたが、ここでは抗議しようと思わない。クラスメイトには会いたかったから授業がなさすぎて寂しかった。そもそもデザインが好きではないのかもしれない。ここでは頭を使うデザインというより感性を重要視した芸術に近い授業だったので、リラックスして通うことができた。ただ、「休みすぎでは...」とは思わうし、最終発表は設けて欲しかった。オンラインで課題提出したがフィードバックがない...デザインを学びたい文芸生にとっては物足りなく感じるかもしれない。
六月二十一日に授業が終わる休みに入る。連日、友達たちと最後のお出かけに行き、感謝を伝えて別れた。これから一年半、一人旅をする。準備がいろいろ大変だった。旅については来月書くつもりだ。